

## 館林市総合計画審議会 第2回安全と環境の部会 議事録【概要】

1. 日 時 令和2年5月20日（水）午後1時30分から午後3時40分まで

2. 場 所 館林市役所5階501A会議室

3. 出席者

【審議会委員】10名

部会長 宝田恭之委員、副部会長 服部覚委員

井田繁美委員、亀山みち子委員、齋藤のぶ江委員、葉坂喜美子委員、吉澤秀明委員、遠藤重吉委員、平井玲子委員、中嶋直一委員

【策定事務局参事】10名

行政課長、安全安心課長、市民協働課長、市民課長、地球環境課長、道路河川課長、建築課長、下水道課長、館林衛生施設組合事務局長、館林地区消防組合消防本部次長兼館林消防署長

【事務局】1名

企画課 政策推進係長

4. 内 容

(1) 開 会

(2) 部会の進め方

事務局より総合計画の構成、基本計画素案の見方、審議の進め方について説明。

(3) 議 事

① 前期基本計画素案の審議

各分野の審議を行いました。委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

### 防災分野

・昨年、市役所からハザードブックが新たに発行されて、市民の間においても、自助・共助・公助の考え方が浸透してきている。また、昨年の台風19号の被害によって市民の防災に関する意識は非常に高まっている。

・災害時の公民館等避難施設の非常電源等はどうなっているのか？

⇒ 館林市は東京電力と災害協定を締結しており、非常用電源車の優先的な確保やレンタルのニッケンとも協定を締結しており、災害時の冷暖房等機器の確保にも努めている。

現在は、災害時の飛沫感染の防止のためのパーティションの購入など、今般のコロナウイルス感染症の対策も進めている。

感染症対策や災害対応には「どこまで準備していれば100%対応できる」という基準はないと思うが、できる限りの準備を進めている。

- ・各施設に常備している発電機の状況は？
- ⇒ 各小中学校の防災倉庫に、計画的に発電機を配備している。小学校についてはすでに配備が済んでおり中学校についても3分の2は配備が済んでいる。一つの発電機の発電能力は900wとなっている。
- ・公民館や市役所への発電機の設置状況は？
- ⇒ 各学校の防災倉庫への発電機の配備が終了次第、公民館の防災倉庫へ配備する予定。また、市役所には、地下に自家発電機が設置されている。能力はフルパワーで稼働したときに4.5時間ほど稼働できるものだが、今後はさらに稼働能力の向上を目指したい。
- 自家発電の設置場所は市役所の地下だが、止水版があるため水没の対策をしており支障はない状況である。
- ・自家発電があるのは市役所のみか？
- ⇒ 市内すべての事業所について把握できているわけではないが、総合福祉センターや館林厚生病院には設置してある。
- ・「災害（風水害、地震、土砂災害、火災など）の対策に対する満足度についての市民アンケートが指標として掲載されている。この指標がまさに、この分野の課題だと考える。現時点で31.0%の満足度になっているが、なぜ残りの7割近い市民は満足していないのかが分かれば課題が浮き彫りになるのではないかと。逆に言えば、それが分かればそこを落とし込むべきではないか。
- ⇒ 今回のアンケートでは、市民の方がアンケートに答えやすいように項目ごとにチェック式で満足度や重要度を図ったものであり、満足していない7割の方のご意見を個別に伺ったデータはない。ただし、全体的な自由記述欄の中に様々なご意見もあったため、この分野のご意見についても参考にしたいと考えている。
- ・現在のコロナ禍の状況を鑑みると、感染症についても対策を計画の中に落とし込む必要があるのではないかと。
- ⇒ 感染症については、総合計画策定委員会でも同様の指摘があり、分野とすると健康の分野に方向性を記述している。

#### 防犯分野

- ・現状と課題に関連する特殊詐欺の対策を強調して欲しい。施策の方向で啓発や情報提供と有るが、もう一步踏み込んで、警察や金融機関との連携などの文言も入れて欲しい。
- ⇒ ご指摘の通り、現段階で警察とも連携しているので、内容を追記できるよう検討する。
- ・警察の知り合いから、教えていただいたのだが、家庭の電話機の留守番電話機能に、「この電話は録音しています」といったメッセージが流れるものがある。
- こういった機器の導入を市でも取り入れてもいいのではないかと考えている。
- ・他の地区に比べて館林市というところは、もともと防犯面で安全な地区なのか？それとも危険な地区なのか？それによって防犯分野の書き方も変わってくるのではないかと。
- 例えば、新宿の歌舞伎町と館林市では防犯対策はまるで違うと思う。館林市は他市に比べて安全であるならば、逆にそれが“館林市としての売り”になるのではないかと。

## 自然環境分野

- ・自然環境分野で、特に水質に関しては市議会で何度も質問が出ており、重要な課題だと認識している。今回の指標に下水道の水洗化率があるが、これは、市全体の水洗化率ではなく、下水道の整備計画内の数値だと思う。予算の都合もあると思うが、下水道の整備はなかなか進まず、BODの数値も下がらないというのが現状だと思う。指標の下水道水洗化率は、館林市全体の下水道普及率に変えたほうがいいのではないかと。水質浄化を進めるには、沼に入る水を市全体として強制的に浄化しなくてはならないのだと思う。そういった方法も検討して欲しい。
- ・具体的な手法は市に検討していただくとして、方向性とする多様な取り組みを検討する、という表現になるのかと思う。

⇒ 館林市には湖沼が多くあり、城沼、多々良沼、茂林寺沼は日本遺産にも認定されている。城沼は鶴生田川が延長になった1級河川でもあるが、残念ながら県内でも水質が良くない沼となっている。これは水流が少ないことや様々な要因があると思われる。しかし、過去から比べるとBOD等の数値の改善は図られている。

ご指摘の通り、沼に“入る水”を浄化しないと当然、沼の水質も良くはならない。ただし、どの家庭からどの程度の生活排水が流入しているのかは正確には把握できていない。市としては、自然環境改善のための沼の浄化と共に、各家庭の合併浄化槽への切り替えなど様々な手法を検討し、導入している。

・沼の浄化については、改善に努力しているのは理解できるが、市民に知られていないため、ホームページに情報を載せるだけでなく、市は市民に理解してもらえるよう、もっと努力すべきではないか。市民も状況を把握することにより水質改善への取り組み方が変わると思う。

⇒ ご指摘の通り、自然環境の問題は市民の意識がすごく重要となる。市としても市民の皆様は状況を分かりやすく把握していただけるよう情報提供に努めたい。

・鶴生田川の水質というのは年々悪化してきているのか、それとも良くなっているのか。

また、浄化する目的も忘れてはならないと思う。一見してきれいな川でも、魚が住めないような川もある。城沼の水質を良くして、ナマズなどが生息できるよう取り組んで欲しい。

⇒ 基本的にBOD数値は改善されている。水は流れているものなので、流動的な数値となってしまうが、基本的に良くなっている。ナマズのとんぷらは地元の名物でもあるので、水質浄化に努めたい。

・館林市の沼は昨年日本遺産にも認定されており、沼の水質問題は今後の10年では最重要課題ではないかと思う。もっと深掘した記述となってもいいのではないかと。

・一市民とすると、BOD数値と言われても良く理解できない。広報等で分かりやすく知らせていただきたい。

・水質だけをクローズアップするのではなく、里沼としての自然環境が館林市にとって重要だという記述が良いと思う。

・各家庭で生活雑排水の排出方法に気を付けなくてはならない。

・各家庭での排水も大事だがそれだけでは水質浄化に限界があるのではないかと。

## ごみ・資源

・館林市のごみステーションの整備は他市に比べて進んでいるのか？

⇒ 他市との比較についての資料はないが、本市のごみステーション数は多いと認識している。

現在 2,000 か所を超えるステーションを配備している。一方で、回収事業者からは減らしてもらいたいという声もいただいている。

・指標にある、「1 日当たりのごみの排出量」は 962 グラムであり、これを減らしていきたいというのは分かるが、その次の指標のリサイクル率の現状を見ると 23.6%となっており、ごみを減らすという市民の意識は足りないのかもしれない。そのため、市でも啓発や情報提供を行っているのだと思うが、市民意識にあまり依存するのも限界だと思う。循環型社会の形成ということが重要であり、有機性廃棄物の処理など、行政としての処理システムを構築していかななくてはならないと考える。

・リサイクルはしていいものと、してはいけないものがある。このことを理解しないとエネルギーが無駄にしてしまうことがある。

もう一つ、施策目的に「ごみを減らして～」とあるが、ごみを減らす施策はどれなのか？

我々は、今、水道の蛇口を開きっぱなしで、どうにか治めようとしているように感じる。現代の使い捨て社会でごみを減らすことなど本当にできるのか。大量生産、大量消費をやめることしか手立てはないが、経済的な影響もあり、館林市が他市に先駆けて、そのようなことが実現できるかと言えば難しいだろう。大量生産、大量消費は当然、経済成長には欠かせないことで、これまで、日本では成長をGDPで計ってきた側面がある。ただし、10 年後 20 年後を見据えれば、そういった社会に移行する重要な分岐点だと考えている。

館林市の総合計画としては、ごみの絶対量を減らすような記述があってもいいのではないかな。

⇒ 現代はごみを出す社会となっている。ごみを産まない社会とするというような施策について検討したい。

・前回の総合計画講演会で、神野先生の講演を拝聴して大変感銘を受けた。先生は宇沢先生のお弟子さんだそうだが、経済学者である彼の社会的共通資本の考え方は、ごみの問題にも共通する部分があると感じた。

## ②前期基本計画指標リスト素案について

## 防災・指標

・目標値の設定根拠はあるのか？また、市民アンケート調査の目標値の考え方は？

⇒ 目標値の設定は難しい部分ではあるが、これまでの各指標のトレンドや国県等の基準などを参考に、各課で設定している。また、市民アンケート調査の目標値設定も難しく、一律で年 1 %の上昇を目指し、令和 7 年度までの 6 年間で 6 %の上昇を目指すこととした。

・災害（風水害、地震、土砂災害、火災など）の対策の満足度について、災害について心配な面がある。昨年の台風 19 号で経験したように災害後の対応が非常に重要だと感じている。

・昨年の例では、特に佐野市の秋山川の決壊が甚大な被害を与えた。我々の地域でも利根川が決壊する可能性もあり、危険な状態だった。

・他自治体の指標との比較はできないのか？市民満足度の現状値31%というのは高いのか低いのかよく分からない。もう少し深堀した方がいいのではないかな？

ただ、確かに、この数値が例えば40%ならどうか、50%ならどうかと言われても判断が難しいと思う。

・現在の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考えると、感染症対策を強化してもらいたい。

(感染症拡大時に)災害が発生した場合、避難所への避難も不安に感じる

⇒ ご指摘の通り、感染症が蔓延している場合、避難時にもソーシャルディスタンスを確保すると、現在設定している避難所の避難者受入れ可能人数は4分の1ほどになる試算になる。しかし、今後いわゆる箱物を建設して対応することは現実的ではないと考えている。昨年配布したハザードマップを確認していただき、水没の恐れのない方はステイホームでの対応を求めることも考えている。

・防災分野のNo.2(準用河川及び幹線排水路の整備率)やNo.3(公共下水道雨水きよの整備率)は詳細な数値設定されているが、根拠はあるのか？

⇒ 準用河川及び幹線排水路の整備率について、本市には準用河川が4路線(茂林寺川、蛇沼川、加法師川、宮田川)あり、その延長は約8,000メートルある。その他、幹線排水路が60路線あり、こちらは約5万4千メートルほどあり、合計で約6万2千メートルになる。このうち、改修が済んでいるのが約4万メートルで、ここから整備率を算出している。現在は宮田川を中心に進めているが、国の補助金を活用しながら整備している状況であり、補助金の動向を見極めながら目標値を算出している。

⇒ No.3の下水道雨水きよの整備率についての目標値の考え方だが、毎年の予算の都合もあり、これまでの整備状況を勘案して設定している。

## 防犯・指標

・防犯(犯罪からの安全、パトロール)の対策の満足度について、現状値が27.1%と低く感じるが、どうしてなのか？

⇒ 市民アンケート(満足度調査)については、これまでの市民活動調査から切り替えて、昨年度初めて実施したアンケート調査であり、この現状値が下がってきていて27.1%なのか、あるいは上がっているのに27.1%なのか分析はできていない。また、本市独自のアンケートであり、他市の満足度と一概に比較できない状況である。

・アンケートを実施する際には、満足していない方の理由を把握する必要があるし、それを施策に生かすべきだと考える。

⇒ 今回実施したアンケート調査は、市民の方が回答しやすいようにチェック式で実施しているものである。記述式欄の分析、把握など、次回のアンケート時には工夫したい。

・民生委員をやっているが、先日の調査で何が一番心配かを聞いている。この中で、やはり防災について関心は高いが、防犯についても関心が多かったと記憶している。高齢者の関心ごとにも把

握する必要があるのではないか？

⇒ 今回実施したアンケート調査は年齢や性別等のクロス集計等の実施など詳細に分析している。

#### 自然環境・指標

・下水道水洗化率だが、これは下水道を利用できる地区内の整備率であり、館林市全体としての整備率を把握する必要があると考える。

⇒ ご指摘の通り、この指標は下水道に接続可能な家庭の整備率となっている。市全体の下水道普及率を記載すべきかについては検討したいと思う。

#### ごみ・資源・指標

・1人1日当たりのごみ排出量の目標値はどのように設定したのか？

⇒ 本市の当該指標の数値は県内で19番目に悪い方に位置している。目標値の設定については、昨年策定した環境基本計画の中で、同内容の目標値を設定しており、10年後には700g/人以下に設定しており、その計画との整合を図っている。

・ごみの関係だが、有機農法やたい肥という文言も入れて欲しい。

③次回の部会開催の日程調整

後日正式通知を発送する。

5 閉会